

現場実習報告会から できたこと、身に付けた方がよいこと

後期現場実習ありがとうございました。

3週間の現場実習が無事終了しました。5日(月)には、生徒たちは充実した表情で登校し、各学級で実習の報告会を行いました。自分たちの経験を話し合い、共有したところです。

保護者の皆様におかれましては、期間中のご協力ありがとうございました。お弁当作りや生徒への励ましなど、多岐にわたりご支援いただいたことに感謝申し上げます。実習のアンケートをお願いしているところですが、是非ご意見ください。よろしく願いいたします。

今回の実習で職員が巡回して、見えたことをいくつかお伝えします。

○休まず元気に通えました

「えっ?そんなこと?」と思われるかもしれませんが。先月号でもお伝えしたとおり、毎日出勤しないと、「当てにならない」、「本当に大丈夫か不安」と評価されるのが現場です。当たり前に通い続ける習慣につなげていく必要があります。休まず通えるのは大切なことなのです。その反面、通勤が心配と感ずることがありました。通勤方法を「言葉」としては分かっているが、実際にどうしたらいいか分からない生徒がいました。また出勤が早過ぎ、事業所から「ちょっと困っています」と伝えられた生徒もいました。

具体的な通勤について、各生徒・家庭での確認が求められると感じました。

○言われた通りの仕事ができ

ほとんどの生徒が、「言われた仕事は、できていて問題ないですよ」とお褒めの言葉をいただきました。指示されたことを受け止め、一生懸命に取り組んでいた姿を巡回職員も見せていただきました。

しかし、さらにお話を聞いていくと、「言われた作業はできている。それ以外は・・・」というお話が多々ありました。挨拶や返事、報告などが自分から、現場で求められるレベルでなかったり、自分のペースになってしまい実習終盤でも能率が上がらなかつたり…。また自分から仕事を求める、教えられたことは自分から取り組むなどが無く、受け身になってしまつたりと、さらに上を目指す中で課題も見つかりました。

○現場で一生懸命に頑張った姿が見られた

前述をしましたように、言われた作業を一生懸命に取り組む姿が見られました。「実習頑張ってるね」とお客様に声を掛けられたり、「ありがとう」とお礼を言われたり頑張った分働く喜びを感じたようです。また「できることが増えた」、「できるようになった」などの成果も感じ、生徒の自信になっているようです。

しかし、学校に戻り生活の様子を見てみると、実習が終わって浮かれている生徒、気が抜けている生徒がいるのも事実です。「できたことを続け、当たり前にしていく」ことが、これからの学校生活で重要な取組になります。



★29年度を見据えた取組をしていきましょう

1年生は、ふれあいジョブ・現場実習を経験することで卒業後の生活を感じることができたと思います。卒業後の生活に必要なことを理解し、求められる力を付けていきましょう。また自己理解をしていきましょう。
 2年生は、得意・不得意なこと、努力するべきことを確認しましょう。その上で卒業後の進路選択をしていきましょう。
 3年生は、卒業後の進路に向けた、実生活の準備をしていきましょう。

<1組>



<実習の様子を確認>

- ・落ち着いて作業ができました。
- ・時間いっぱい作業を頑張りました。
- ・利用者の人たちと一緒に歩いたり、活動できたりしました。
- ・全員体調を崩さず、通い続けることができました。
- ・もっと「なごみの家」に行きたかったです。

お互いの頑張った様子を確認し合いました。

<3年>



<職種に分かれ話し合い>

- ・製造現場
 テキパキ働く。そのために支度を早くする、集中して作業をすることが必要。
- ・建設現場
 仕事の把握、安全確認、判断が求められる。
- ・接客や福祉の現場
 体調管理の徹底と、業務のスピードが必要。

これらをしっかり身に付けるべきという、話し合いでのまとめでした。

<2年>



<実習から大切に感じたことを発表>

- ・前日にひげを剃る、鏡を見て襟を整えるなど身だしなみに気を付ける。
- ・自分から「おはよう」「さよなら」と挨拶をする。自分から動く。
- ・素早く行動する(2秒で行動)
- ・報告の声を大きく出す。
- ・時計を見て活動、作業。集中して取り組む。
- ・みんなと仲良く泣かないようにする。

特に事業所から指摘をされたことを確認しました。

<1年A>



<個々の意見から要点を確認>

- 「指示に従う」
 ミスを少なくし、素早く、効率的に仕事をするために。
- 「自分で判断する」
 教えられたこと、できることからいろいろ方法を見つけて判断、選択する。
- 「メモを取る」
 覚えきれないこと、大切なことを記録する。
- 「報告、相談をする」
 問題を早く解決し、職場全体のやる気につながる。

今後、取り組むべきことをキーワードで確認しました。

<1年B>



<意見の共通項から、考える>

- ・長時間働く力を付ける。
 → 体力トレーニング、朝運動
- ・元気に報告する。
 → 普段から報告を練習
- ・作業スピードを速める。
 → 作業の環境を整える
- ・集中力
 → 一つのものに絞って作業
- ・体調管理と休まないこと。
 → 早寝(遅くても10:00)、早起で同じ時間で生活
- ・挨拶、返事を相手に伝える。
 → 普段から大きな声で言う

具体的な取組場面を確認できました。

<1年C>



<動画や写真を見て、現場を想像しながら確認>

- ・挨拶する力(普段から)
- ・作業を素早く丁寧にする力
- ・最後まで続ける力
- ・落ち着いて働く力
- ・会話する力
- ・体力
- ・色々な仕事ができる力

それぞれの現場の様子を見て、聞いて、感じて、どこの職場にも必要なことが挙げられました。

PTA進路研修に行ってきました。

11月30日(水)にPTA進路研修(兼11月の進路教室)を行い、19名の方が参加しました。6か所の事業所を回り、立地場所はもちろんのこと、働く上で大切なことや、福祉サービスを利用する上での意識、集団で居住をする上での生活環境などを、実際の様子を見て、聞いて、感じて学ぶことができました。

株式会社山崎食品



冷凍マグロの解体・加工をしている企業です。冷凍倉庫(-50℃)から衛生管理されたチルド工場まで、働く現場を見学し、求められる力を感じてきました。またお話いただく中で「決まりを守ること」が大切であり、障害の有る無しにかかわらず、会社では働く上で求められるとのことでした。

株式会社サンファーム水沢工場



津南を本拠地として、シイタケ栽培をしている就労継続支援A型の事業所です。津南の工場とは栽培方法も異なるため、温度・湿度管理が重要とのこと。そのため管理業務を覚えてもらうこと、自分から動けることが求められるということです。またお話いただく中で、「社会性を身に付けてほしい、また社会経験の場を増やしてほしい。それは学校に頼るのではなく、家で行う。身に付くのは十代のうち。」と保護者へのメッセージもいただきました。

わかかふえ



本町にある就労継続支援B型の事業所です。ワークセンターなごみの従たる事業所で、喫茶サービス、お弁当の配食をしています。実際にお昼いただきました。食品を扱い、接客をする事業所なので、衛生管理、対人マナー、社会性が求められるとのことでした。

エンゼル妻有



高山にある福祉サービス事業所です。今回は宿泊型自立訓練を中心に見学をしました。個々に部屋が有り、電気メーターも個別に分かれていました。また自炊練習のためのキッチンには集団で利用できる環境で、まさに生活の練習が目的とのことでした。利用する上では、「サービス利用の目的をもつこと」、「自分のことは自分でできること」が必要と教えていただきました。

グループホームうえの あじさい・なでしこ



川西地区の上野に新設したグループホームです。障害の重い方も利用されているとのことでした。実際に利用されている居室やダイニング、浴室を見せていただきました。きれいで快適な環境で生活し、日中は皆さんが福祉サービス事業所へ通われているとのことでした。

なかまの家



なかごグリーンパークそばにある福祉事業所で、施設入所支援を事業展開しています。十日町市に早くから開所し、地域の障がい福祉を支えてきた事業所です。集団で生活している様子や屋間の活動の説明をしていただきました。利用する上での、支援区分についても説明いただきました。

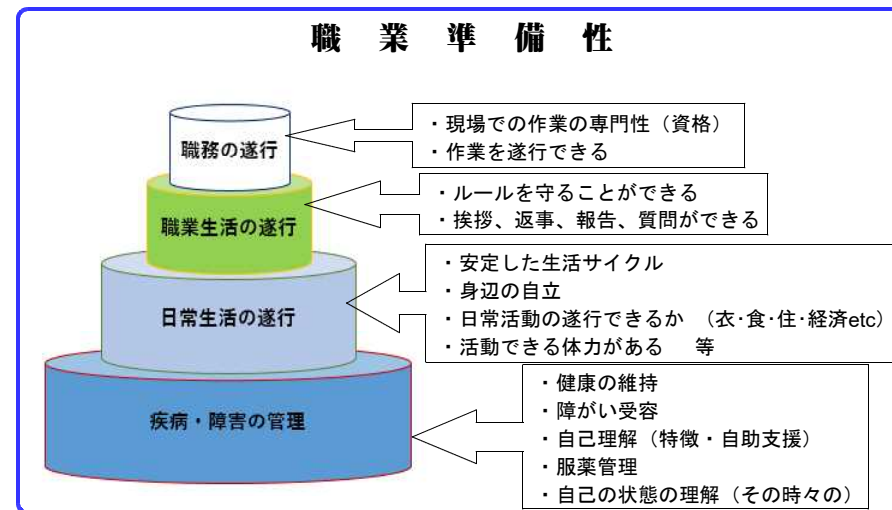
ある会議にて・・・

先日、「ハローワーク十日町」と「障がい者就業・生活支援センターあおぞら」が開催した、障害者就労支援関係機関連絡会議に参加しました。その中の、新潟障害者職業センターのカウンセラーの方からお話を聞く機会があり、こんな話を伺いました。

「就職が目的になっていては、いけません。
“一瞬でも就労できればOK”ではなく、続けられることが大切です。」

「就職を目指す、専門の資格や作業内容に目がいきがちですが、
就職のための準備ができていないと、職にはつながらず、続きません。」

そのようなお話があり、その上で以下のような図を見せていただきました。説明いただいた内容では一般的な支援機関の関わり方も記載してあったのですが、今回はピラミッドを支える各段の内容についてのみ記述します。



お話を聞いて、当校の生徒の進路を考える上では、企業就労だろうと福祉サービスの利用だろうと求められるのは同じと感じました。進路を選択するまでにしっかりと準備をすることが必要です。大切なのは、支える土台となるものが、いかにしっかりしているかです。内容を考えると高等部だけではやりきれず、幼少期から継続的に指導していくべき内容もあります。しかし、高等部に在籍している生徒たちは、目指すべきもの(希望する進路)があれば、在籍期間中に準備をしなければなりません。

もちろん難しい部分はあると思います。その時は支援や配慮が必要になります。その支援が現場で対応可能なものなのか、本人が自助支援として身に付けていくことなのか、または家族が支援しなければいけないことなのか、見極めていくことが求められます。場合によっては、目指しているものが本当に本人に適しているのかを再度考えることも必要です。

卒業後の進路は一つの目標であり、社会生活へのスタートラインです。
自分が活躍できるものを選択し、良いスタートを切れるよう、準備をしっかりとしていきます。

不明な点があれば、いつでもお問い合わせください。

新潟県立小出特別支援学校川西分校

TEL 025-768-3325

FAX 025-768-3371

担当:進路指導部 細井哲明 佐藤正高

